

新川通信 第17号

巻頭言

題字：佐藤 大作
令和6年4月15日発行

内野から世界に挑戦 スポGOMIワールドカップ

ともえ
世話人 高橋 智恵

【スポGOMIワールドカップ2023】

- ・企画：(公財) 日本財団
- ・主催：(一社) ソーシャルスポーツイニシアチブ
- ・協力：(株) ファーストリテイリング
- ・後援：環境省、スポーツ庁、渋谷区
- ・開催日：2023年11月22日(水)
- ・競技場所：東京都渋谷区
- ・開会式：国際連合大学
- ・参加者：世界21カ国代表チーム

【結果】

- 第1位：イギリス代表：The North Will Rise Again
- 第2位：日本代表：スマイルストーリー
- 第3位：イタリア代表：SpoGhetti Team

ごみ拾いにスポーツの要素を加えた日本発祥の競技「スポGOMI」。記念すべき初めてのワールドカップは、世界21カ国から代表チームが集結し、渋谷の町ごみを拾って世界一を競った。スマイルストーリーチームは、7月の新潟予選で優勝。10月の各県代表チームで競った日本STAGEでも優勝し、初代スポGOMI日本チャンピオンとして今回のワールドカップの出場権を勝ち取った。



世界21カ国代表チームの皆さん

私たちは2020年6月から、夏の暑さにも、冬の寒さや砂嵐にも負けず、月に1度の海岸清掃を、参加者と一緒に継続してきた。

また今年度からは越後新川まちおこしの会の春と秋の新川清掃の他にも、日本海に流出する海ごみを未然に防ぐことを目的に、新川上流部の清掃も始めた。

7月の新潟予選は寺泊のビーチでの開催だったが、10月の海岸清掃の成果が十二分に発揮できた。どの辺りにごみが溜まるのか、細かいルールの中どのようにポイントを稼ぐのか、チームワークの見せどころだった。



新宿の町中のゴミを必死に探す3名

47都道府県の代表チームが競い合う日本STAGEは10月に東京都新宿区で開催された。経験のない町ごみ、そして土地勘のない新宿というアドバンテージもあったが、雨という悪天候が私たちには功を奏し、若者や男性3人組のチーム編成が目立つ中、女性2人に男性1人(しかも全員40代)のスマイルストーリーはごみ総量37.58kg(4381.9ポイント)を獲得し、準優勝チームに20kg以上(132.3ポイント)の圧倒的大差で優勝した。



新宿で開催の日本選手権で優勝、日本の代表に

スポGOMIでは上述したように3人1組のチームで競技を行う。このチーム編成にルールはなく、男性のみ、女性のみ、男女混合でも参加可能。また年齢制限もなく老若男女、誰でも参加できる。流行りの表現で言えば、まさにバリアフリーでサステイナブルなスポーツだ。制限時間内で規定エリア内のごみを拾い、拾ったごみの種類によって獲得できるポイントを競う。

どのスポーツにも言えることだが、チームワークは勝敗に大きな影響を与える。スポGOMIは3人の距離が常に10m以内を保ちながら移動し(走ってはいけない、早歩き)ごみを拾わなければならない。

猪突猛進ごみまっしぐらの綱本と、何事にも動じず、淡々とごみを拾う高橋の間を唯一の男性メンバー家がうまくバランスを取って、日本代表切符を勝ち取った。

ワールドカップに先立ち私たちは韓国メディアの取材を受けたが、その際に、他国のチームはフィジカルトレーニングや綿密な作戦を立てて、ワールドカップへの準備を整えていることを知った。そして、こう質問された。

「チームJAPANはどんなトレーニングをしているのか?」・・・メンタルトレーニングとチームワーク・・・それだけが精一杯の私たちの答えだった。



渋谷で必死にゴミを拾い続けた

ワールドカップ当日は11月下旬にも関わらず、快晴で気温も高く、私たちは汗だくになりながら、建物の隙間に入り、路上に這いつくばり、汚く臭いごみと葛藤し、手がちぎれるのではと思いつつながら、55.5kg(6,154.4ポイント)のごみを持ち帰ったが、残念ながらイギリスに次ぐ2位という結果だった。

今回のワールドカップは開会式が行われた国連大学をスタート地点とし、45分ハーフの前半後半を通じてより多くのポイントを獲得したチームが勝利するというルールであった。新潟予選、日本STAGEの時の60分1本勝負に比べると、ワールドカップの45分ハーフは体力的にも非常に辛く、「ごみ拾いはスポーツだ!」まさにそのものだった。



イギリス代表が優勝、スマイルストーリーは準優勝

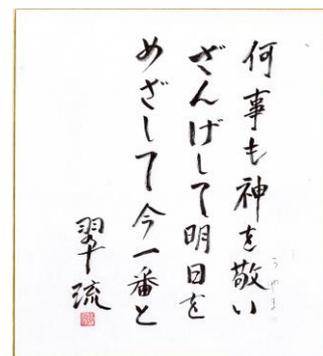
競技翌朝ベッドで目が覚めても、身体が全く動かず、あんなに酷い全身筋肉痛は未だかつて味わったことがない。そして至る所にアザ・・・。本当に過酷なスポーツだ。

スポGOMIワールドカップに出場し、文化や生活習慣の違いがあっても、地球環境のことを真剣に考え自分ごととして捉え、海洋ごみ問題に関心を持ち、何かアクションができないかと念いを同じにする仲間が世界中にいることがわかり、とても心強い気持ちになった。

最後に、今回のスポGOMIワールドカップ出場にあたり、越後新川まちおこしの会員の皆様からも多くの励ましの言葉、お褒めの言葉をいただいたことに、この場をお借りし、御礼申し上げます。有難うございました。



準優勝のスマイルストーリーにインタビュー



笹川悦夫氏 作品

ごみ拾いはスポーツだ！大会前夜のアナザーストーリー

やご
家後 寛之

11/20 (月) 昼

内野駅にチームスマイルストーリー集結。代表の綱本女史は、いつもなら余裕の表情とフレッシュなスマイルのナイスガールだが、口数が少ない。「うちらホームの日本で負けたら、超ヤバイよね〜！」

さらに自らにプレッシャーをかけることを忘れないストイックぶりを発揮。副代表高橋女史はいつも通り。

新潟駅到着

酎ハイとつまみをゲットし、新幹線に乗り込み、すぐに乾杯。数秒で飲み干し、綱本・高橋の二人は即就寝。綱本のさっきまでの緊張感はなんだったのだろうか。

東京駅到着

新幹線で飲み干した酒は完全に抜け、選手モードに切り替わる二人。ホテルに荷物だけ預け、スタート地点である国連大学を目指す。リサーチだ。

国連大学到着

スタート地点の情報だけはあったので、間違いなくこの境界が大会エリアになる。海外選手はまったく土地勘はないはずだから、国連大学周辺のゴミを探さよう。渋谷駅方面はゴミだらけだろうから、とりあえず調査は後回し。まず原宿辺りを調査してみようということになった。

国連大学から青山通りを歩くこと約2キロ、表参道とクロス。ゴミ無し…。表参道から原宿駅方面まで歩く。ゴミ無し…。若者たちが集まってるところはさすがにゴミはあるだろう。キャットストリートゴミ無し…

綱本の表情が曇る。私たちはゴミを拾うことができるのだろうか。夕方にはレセプションパーティーが始まる。早く戻らねば。



各国の選手と交流をおこなった

ホテルチェックイン

レセプションパーティー。世界各国から21チームが集い、交流を深める。英語力が皆無の私と綱本は、いつもの「力の力」を90%程度封印され、「アーハーン」と「オーイエス」だけでその場を乗り切った。いや、乗り切ったことにしよう。

一方、英語が堪能な高橋は各選手団と談笑。楽しそう。私達の通訳をしてくれるっていったのに、ずっと側にいるよって言ったのに、裏切者。。

約2時間のパーティーを終え、我々はまた、渋谷を目指す。夜の国連大学。すでにワールドカップのステージが生まれ、外灯に怪しく光っている。ゴミはあるのだろうか。国連大学から渋谷駅へ下る。

飲み屋だらけだ。ゴミはあるにはあったがタバコの吸い殻ばかり。タバコをちまちま拾うのは綱本の性に合わない。大物の嗅覚は綱本に任せ、高橋の吸い殻ホイホイ作戦も投入する必要があるかもしれない。

もう22時を回った。とりあえず作戦会議のため、のんべえ横丁で店を探そう。レモンサワーで乾杯。パーティーでしっかり食べたのに、ここでもガンガン料理を頼むあたりはさすがにパワフルな女子コンビ。なんとか食べきった後に、おかみが言った。「渋谷にゴミは無いよ。」

11/21 (土)

午前は綱本がスポーツ庁を表敬訪問。綱本は室伏長官に会えるとあってウキウキだ。



霞ヶ関の文部科学省のスポーツ庁玄関前で

高橋と私はルール説明会。ルール説明もすべて英語だったため、私は全く役に立たない。聞いているふりをして休憩にしよう。

午後は観光学習という名の東京観光。スカイツリーやら浅草やらをバスでめぐる。全く集中できない。

のんべえ横丁のおかみに言われた一言が逡巡する。「渋谷にゴミは無いよ。」浅草寺で気を紛らわそうと入った飲み屋で、オーストラリアチームと遭遇。「トーキョーはクリーンなシティだぜ。明日ゴミは拾えないぜベイバー」と笑う彼らに少しほっとした。

夜、綱本・高橋は疲労困憊のため、明日の本大会に向け休養。リサーチの使命は私に任された。22 時過ぎ、綱本から入電。「道玄坂をしっかりと確認してきてね。スクランブル交差点はもはや観光地だから、絶対大会エリアに入るはず。家後ちゃん頼むね！」

11/22(金)

競技エリアに道玄坂が入った。世界大会は 45 分ハーフで行われた。スタート地点の国連大学から道玄坂までの距離は約 2 キロ。アップダウンの急なこの 2 キロを 45 分で往復する作戦は、四十路を過ぎた我々に耐えられるのだろうか。

前半スタート。一目散に道玄坂を目指す。路上にはほとんどゴミは無い。我々はカラスがつついて散乱したゴミや、ビルの狭間に投げ捨てられた Don't touch this 的な something を拾いまくり、30 kg 超えのゴミを回収した。

前半は 1 位で折り返す。作戦はどうする？また道玄坂か？すでに我々の体力は相当消耗しており、思考力も低下。ハーフタイム中も各国メディアの取材攻勢でまともに食事も出来ない。



傘から捨てられた路上のコーンまで何でも拾い抱える ※1

「後悔の無いように！後半も道玄坂を目指そう！」意見は一致した。前半 1 位の我々の周りには世界各国の取材陣。家後は胸にカメラをつけて後半スタート。

道玄坂が遠い…筋肉に確実に蓄積している乳酸くんをなだめながら、前半と同じ坂を下っていく。前半のような大物が捕れず、袋小路で時間をロス。大物を発見して

も持ち帰れない…。

フラストレーションが募る中、古びた雑居ビルの裏にタバコのポイ捨て密集地とゴミの放置を発見。



路上に散乱するゴミを必死に拾う ※2

ついに高橋の吸い殻ホイホイ作戦を執行し、今まではぼスルーしてきたタバコも確保。前半ほどではないが、このゴミを持って国連大学に戻れば、確実に上腕二頭筋が崩壊する程度の重量は確保できた。時間ギリギリまで道玄坂でゴミを拾い、残り 15 分を切った。

最後の力を振り絞り、またもや約 30 kg のゴミを抱えながら、国連大学を目指す。汗が目に入り視界がぼやける。腕の感覚はもはや無い。競技者同士は 10m 以上離れてはいけな。綱本が先頭を行き、高橋は殿(しんがり)。前を行く二人の袋から落ちたゴミも拾いながら進む。

スクランブル交差点に差し掛かるころには、「体力の限界…」と男泣きする千代の富士と「精神が肉体を超え始めたか…」と感嘆する安西先生が脳内をクロスオーバーし、綱本・高橋との距離感もぼやけてきた。時間と感覚が緩くなった世界で、彼女達の声聴いていた。

「大丈夫だよ！」「もうすぐゴールだよ！」二人の声と安西先生に守られて、なんとかゴールに辿り着いた。

初の世界大会で準優勝となりました。

でもそれだけじゃない。なんの対価を求めず、メンバーと目的に向かってひとつになることに、この上無い充実感を感じることが出来ました。



※1, 2 画像提供

日本財団「海と日本プロジェクト」

準優勝のメダル

「血の通った復旧復興を」～中越大震災復興の経験と教訓から～

会員 渡辺 斉

本当に大変な年の初めになってしまいました。元旦の夕刻、西区でも震度5強の揺れに襲われました。幸い我が家は柵から物が落ちたくらいの軽微な被害で済みましたので市内の被害状況を見てきましたが旧弥彦街道沿いのエリアやときめき団地、善久などでは報道以上に液状化の被害が甚大でした。



地震での液状化により、陥没した新潟西郵便局駐車場

また震源の能登半島に入った友人からも刻々と壊滅的な被害の状況が伝えられ中越大震災で対応した資料など送っているところです。あらためてこの度の能登半島地震で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様には、一日も早く平穏な日常生活へと戻れますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年が関東大震災から百年を迎えた今日、気象の激甚化や地殻変動の活発化で続発する自然災害、また、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルによるガザの爆撃など不安な世界情勢の中で、あらためて圧倒的な自然に内包され活かされている人間存在、自然を敬いその様相を丁寧に読みながらその恵みを楽しむ知恵や技、互いの違いを認め合い助け合い分かち合いながら心豊に生きる暮らしの価値、そんなメッセージをかつて未曾有の大震災を経験した中越から発信し、伝えていくことはとても大切なことと思っています。

2004年10月23日、震度7の激震に襲われた中越大震災ではこの度の能登半島地震と同様に、大規模な土砂崩壊、道路網の寸断による集落の孤立と情報の錯綜、水道やガスなど地中にあるライフラインのダメージ、余震の続発等が大きな特徴ですが、一方で犠牲者が少なかったことは特筆すべきで、長年豪雪と闘ってきた中山間地域ゆえの雪に強い住まいづくりや「あそこのおばあちゃんはその部屋で寝ているはずだ」という情報を地域の方が知っていて、協力して助け出したという絆の強さ、コミュニティの強さが被害を軽減した大きな要因だと思います。

想えばあれから20年、復旧復興のあり方に悩みながら無我夢中で取り組んだ戦場のような日々が走馬灯のように蘇ってきます。



雪降り前までに居住の安定をと24時間体制で仮設住宅を建設（長岡市千歳地区）

当時は新潟県の住宅政策担当として応急仮設住宅建設の総括を担当、翌年からは全村避難を余儀なくされた山古志村を含む被災10市町村が合併した長岡市の長嶋復興管理監（旧山古志村村長）の後任に出向し被災者の住まいや生業の再建、壊滅的な被害を受けた集落の再生、山里の持続可能な復興に向けた中間支援組織「山の暮らし再生機構」の設立等に取り組みました。その際、阪神淡路大震災へ応援に行った経験、神戸のまちづくり関係者と重ねた孤独死問題や地域再生の議論から学んだこと、そして過疎高齢化等で悩む中山間地域の地域振興や高齢者住宅政策を担当した経験がとても役に立ち、コミュニティ保存や助け合いに配慮した取り組みにつなげることもできました。一方で反省すべき点や教訓も沢山あり現場の最前線で直接取り組んだ中で感じたこと、能登半島の皆さんはじめ、今後に伝えていきたいことで以下の点は強調したいと思います。



持続可能な集落再生へ話し合いを重ねる（山古志木籠地区）



地域内循環や景観に配慮した復興住宅団地
(山古志竹沢地区)

- 被災者を数として見ないこと、それぞれが家族や暮らしを背負った個人として丁寧に寄り添っていくという視点と想像力が血の通った復興に繋がるといこと（早期復旧復興の圧力に屈さないこと）
- 応急仮設住宅の供給に当たってはコミュニティや助け合いに配慮するとともに生業の継承などまちづくりとしての視点、いわば仮設市街地としての供給検討が望まれること
- 持続可能な地域再生に向けてブレない理念の旗を掲げること。住民の主體的な参画を促すこと、とり分け女性や若者、そして合意形成を急がないこと（自分たちで決定した経験が地域に戻った時に直面する様々な課題を乗り越えていくことに繋がる）
- 経済性や効率性の視点から安易に上流を捨てず長い歴史に育まれてきた自然とともに生きる知恵や技、上流存在の役割や価値を尊重し、上流の農山村と下流の都市との共存を図ることが大切
- 震災が無くても過疎高齢化など多くの課題を抱えている地域では元に戻すだけでなくより良い地域づくりを目指すことが大切（元に戻すという災害救助法を超える視野が必要）



復興基金で修復した個人所有の歴史的建築物群
(撰田屋地区)

- 大震災を想定しあらかじめ避難システム、仮設住宅供給、入居者像の把握、孤独死対策、インフラ再生等のシミュレーション、いわゆる事前復興の諸準備を行うことが大切（経験がなかったので実際にはとても苦勞、ハードウェアだけでなくソフトウェア対応が重要）
- 税金ではなかなか対応できない領域をきめ細かくカバーした復興基金制度の意義と成果
- 被災者自らが復旧復興、地域再生等の事業に従事できる仕組みの構築（自らの自立とふるさと再生への貢献）

中越地震から 20 年、自然の植生は崩壊した山肌を被い隠しつつあります。行政や関係機関、NPO 等多様な主体のご尽力、ボランティアなど全国の皆様からのご支援や多彩な交流のお陰で、そして何よりも被災をバネにした住民自らの地域を良くしていこうという取り組みの力で山古志はじめ中越の山里では落ちついた暮らしを取り戻しつつ感があります。

むしろ以前よりも元気になったと感じる集落もあります。中山間地域を取り巻く情勢は依然として厳しいものがありますが、人々が大震災を乗り越えて自然と寄り添いながら心豊かに誇りを持って住み続けていけるよう願っています。終わりに復旧復興に懸命に取り組む志半ばで亡くなった同僚、先輩、友人に心からの哀悼と鎮魂をお祈りいたします。合掌。



被災者と復興関係者を勇気づけたフェニックス花火

渡辺 斉 略歴

1979 年 東北大学大学院修了後新潟県庁に入庁「大地の芸術祭」などまちづくりや地域づくりを担当、中越大震災では仮設住宅建設の総括を担当後、長岡市復興管理監に出向。

2002 年～2016 年 新潟大学非常勤講師。

2013 年県を退職、新潟県建築士会常務理事、魚沼市政策参与、石巻市復興政策アドバイザーなどを経て、現在は㈱グリーンシグマ技術顧問、(公社)新潟県建築士会顧問、にいがた庭園文化交流協会副会長。

私の健康散歩道

会員 加藤 惇一

四番町在住の私の散歩は「大萩橋」(註1)を渡ってウオロク脇の新川沿いを上流に向かって歩きます。

上皇陛下が皇太子でおられた時に、西川と新川の川の立体交差点を視察されました。その時の「記念碑」がウオロク脇の新川端に“あります”。

「コメリ槇尾店」前を経由して西川の「旭橋」を渡り「いちょう公園」に至ります。明治天皇が休憩された遺跡碑(註2)を見て、西地区公民館の図書館で「日経新聞」を閲覧して英気と教養を補充した後、公民館裏の駐車場から清徳寺の裏道を抜けて内野駅の自由通路の階段を昇ります。小学校グラウンド側に階段を下りてまた昇って駅前側に戻ると約90段、81才の私には結構いい運動になります。

内野駅前“某ラーメン店”で「煮干しラーメン」を頂いて、「いちまん」前を歩いて「内野大神宮(註3)」にお参りをしてから、三日月橋を渡って四番町に帰ります。このコースでは、駅前でお金を使ったので私的には「地方経済応援コース」と名付けております。

約、5600歩。

歩きながら気を付けていることは、時々空を見上げるように意識しています。(視線をあげると、気分的にも上向きになるように感じるのだ)

近頃の電柱は、太い線、細い線、黒い小箱、トランス、風車など色々な物を下げていて“苦労しているのは自分だけではない電柱も苦労しているのだ”と仲間意識を感じます。

“ボーッと歩いている”とついつい歩幅が狭くなっているため、時々意識して歩幅を大きくします。(認知症予防に効果があるように信じているのだ)

次に、夏の暑い日とか雨降りの日の散歩コースをご紹介します。年中、冷暖房完備で、雨風の心配のない、しかも階段もある「イオン新潟西店96段」で百円ショップをじっくりと見て回ります。

様々なアイデア商品が有って、使い方を想像しながら見て回ります。

基本的には、見るだけのつもりなのですが、時々は何つか買ってしまいます「ストレス発散費用」だと納得しています。

私的には「“百均”で時代の流れを見るコース」と名付けております。

若い頃には「お金さえあれば何でも出来る。健康なんて当たり前」と思っていました。

ところが、この年になってみると「健康ほど有難いものはない!健康でなければ お金など何の役にも立たない」事ようやく気が付きました、

今日も又、健康第一、お金は第二の精神で散歩に出かけます。

(註1) 用水路の争いを仲裁した大竹貫一(旧中之島村出身、大河津分水建設に尽力)と萩野左門(旧黒崎町出身、衆議院議員、新潟市長)に由来する。

(註2) 明治11年9月16日明治天皇が全国巡幸の折に休憩された渡辺邸跡。

(註3) 新潟県は、神社の数が全国1位で4679社。2番目は兵庫県の3860社(2020年)。



川の流れるように

副会長 竹内 隆明

三寒四温を繰り返しながら、春へと向かってゆくというが、まさしくその通りな天候が続く。

小春日和のような1日のあとは、雪が降って少し積もった、東京では積雪があり不要不急の外出は控えてとニュースが報じている。

そうこうしているうちに昼近くになり、お日様が雲間から覗く、天気雨も降って来たアスファルトの雪が溶けて黒い道が現れる。

昨年は、慌ただしくて目まぐるしい年であった。

年明け二月に母が亡くなった、母は痴呆があり施設のお世話になっていたものの具合が取り立てて悪くもなかったのだが、朝食後少し体調が優れないと連絡があり、私たちが施設に着くと周りを見渡すようにして息を引き取った。

眠るようであって苦しんだ様子も無かった、老衰と診断書には記載があった。

夏は、記録的な猛暑、エアコンをフル稼働しながら日々を過ごした。

大分前から、身体に異変を感じていたものの歳のせいとたかを括っていたが、妻が勧めるので近所の病院で検査を受けたら、だいぶ進んだ病気であると診断され、大きな病院への紹介を受けて入院して手術になり、その後今日まで投薬治療を続けているのだ。

幸い今は、これまでと何も変わらない日常を送れている、もちろんのことお酒も呑めるし運動もできる。

健康は、何にも増して大切なのだと痛感した。



妻の勧めで一緒に行った温泉

新川に架かる橋梁を車で渡る、春夏秋冬で川面や川色は変わる。

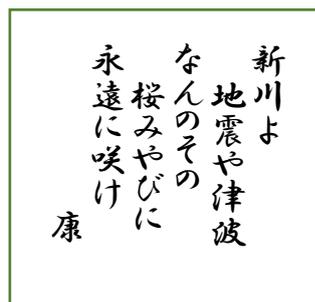


新川元橋から佐渡ヶ島を望む絶景

春は、田んぼからの代掻き水でドロ色、秋口は河口から塩が上がって来て黒っぽい水色になる、そこに流れる水は絶えずしていても一度として同じではなく、そこに浮かび流れる泡とて同じものは無い。

まさしく、古典文学方丈記の一節を思う、生きるとは、川を流れる水のような自然の流れには逆らわず身を任せるしかないのだ。

しみじみと感じ入っている 65 歳の一年であった。



古侯 康氏 作品

内野大火から70年！次世代に繋ぐ5回の講座

【火の用心が基本です！自分達の町は、自分達で護ろう！】

顧問 佐藤 正人

令和5年(2023)は、内野大火から70年が経過しました。昭和28年(1953)12月10日午後5時少し前、新川わきの内野町3番町より出火しました。火は北西の強風にあおられ瞬間間に四ッ角方向に飛び火して燃え広がり、町の中心部の銀行、農協、2軒の酒蔵はじめ商店街や住宅を焼きつくしました。



雨空を焦がし炎上する内野町中心部 12月11日 新潟日報

近接する市町村の消防署や消防団からも消防自動車や消防ポンプが応援に駆け付けましたが、風下側には水利が乏しく当時はまだ消火栓も無く、数か所の防火水槽は直ぐに空になり、各家庭の井戸水も使い果たしました。

「最後まで頼りになったのが樋木酒造の酒蔵の脇の水量豊富な井戸だけだった」と消防団の先輩方から聞いていました。4棟の破壊工作により10日午後10時前に、ようやく鎮火しました。焼失した地域は内野町の弥彦街道沿いの両側で、128棟、焼失面積は約46,000㎡にも及ぶ大火災でした。



昭和28年の内野大火の出火場所と延焼し焼失した区域

まだ皆さんの記憶に新しい平成28年(2016)12月22日午前10時20分に発生した糸魚川大火では、糸魚川駅近くのラーメン店から出火しました。

発生直後から温かい南風が山を越えて日本海側に吹き降ろすと同時に空気を乾燥させ気温が上がるフェーン現象で、台風並みの最大瞬間風速27.2m/sを記録し、飛び火でさらに火災が広がり、翌23日の午後4時30分まで30時間あまり燃え続け火元の糸魚川駅前

から海側の商店街や家屋147棟、焼失面積は約40,000㎡で、いかに内野大火が大きな火災だったのかが理解出来ると思います。

この記憶と記録を風化させないために当会では、このたび5回の連続講座を企画しました。

・第1回目講座 7月22日

「在郷町内野の歩み、2度の大火と合併から現在」

大正4年(1915)8月5日の夜半、稲荷町(7番町)から出火(原因は提灯の置き忘れ?)。

おりからの出しの風(南風)にあおられ、四ッ角方面に飛び火し内野上大神宮を含む約200戸を焼き尽くし、昭和28年の大火を上回る大火でした。



大正4年の内野大火の出火場所と延焼し焼失した区域

内野は40年も絶たないうちに、第二次世界大戦をはさんで2度の大火から街を復興させたことは、先人達の努力と力強さには、目を見張るものがあります!

昭和28年の内野大火の際は、岡田正平新潟県知事が即座に決断し新発田保安隊と県警機動隊並びに県土木に隊員100名とブルドーザー5台を内野に急行させ破壊消火や復旧作業にあたらせると共に、幹部を集め首脳会議を開き災害救助法を発動し、内野町役場に現地対策本部を設けることを決め、直ちに副知事と民生部長を現地向かわせ指揮にあたらせてくれました。

更に、その日のうちに近郷から、おにぎりなど1500人分の炊き出しが届けられました。翌日からは近隣市町村からも身近な生活雑貨、また材木や建築資材や食料品が、全国各地や海外からも多くの義援金や救援物資が届けられました。

12日には早くも第四銀行が仮店舗で営業を始め、内野小学校も同日から再開しました。内野町議会は県の指導を受け13日中に都市計画法を了承しました。

これにより県土木部が測量を開始。15日には四ッ角を中心に、弥彦街道と駅前通りの道路幅を旧5～6mから大幅に広げて現在の15～18mを示す杭打ちを完了させ、迅速な復旧作業が進められました。



内野町民達は、所有地面積の減少にも積極的に協力したことが、町が近代的な都市に生まれ変わることが驚異的な速さで進められ、現在の内野町となりました。

・第2回目講座 8月27日

「内野町の町名と歴史を振り返る」

本井晴信様（元新潟県文書館副館長）から内野・五十嵐はじめ、近郷の中野小屋・赤塚・坂井輪地域の地名の由来や地域の歩みと歴史を、豊富な知識と資料を使い、解りやすく講演して頂きました。



資料を使い説明の本井晴信様

・第3回目講座 9月24日

「大火経験者より当時の話を聞く」

2番町在住の川内正子さん（旧姓小田島）は当時14歳で、内野中学校2年生でした。火災発生時は、まだ中学校に居て半鐘が鳴り響き燃え盛る場所を避けて急いで家に戻りました。まだ小田嶋自転車店と家は無事でした。60代の仏壇は親戚が、出してくれました。



川内 正子さん

家財道具はリヤカーに積み松風堂書店の脇から踏切を越えて旭町の坂を上ったそうで、間もなく店と住まいも飛び火で全焼したそうです。仮住まいは7番町にあった母の実家、中原三平商店の梨倉で、金比羅神社から西川に向かうと右角に大きな倉庫が有りました。一か月も立たないうちにバラックの店舗の仮住まいが出来、毎日忙しくお母さんらが自転車・バイク店を営みながら、一年後には今の住まいと店舗が出来上がったそうです。



内藤 実さん

もう1人は、川内さん宅の道を挟んだ隣の内藤 実さん、13歳で内野中学1年生でした。

家に居ましたが消火作業をしていた消防団の方々は、「四ッ角で火を止めるから家財道具は出さなくても大丈夫だ!」と言われ、

その言葉を信じて道具を出さずに両親は火元に近い3番町で親戚の赤塚屋金物店の道具出しを終えましたが風向きが変わり、その家は焼け残ったそうです。

当時の内藤さん宅は荒物雑貨屋を営んでいましたので、店にはザルやボテなど燃えやすい商品が所狭しと並べてありました。祖父から「実、教科書だけ持って山に逃げろ!」と言われたそうです。握りこぶし大の火の玉が多く飛んできて、我が家は全焼し、焼け残った物は焼け落ちた瓦と白い塊の食塩だけでした。

仏壇は150代で大きな物でしたが新潟から来た問屋さん達が出してくれたそうです。仮住まいは、踏切を越えた旭町の坂の脇にある、分家宅に避難したとの話を、お聞き出来ました。

・第4回目講座 10月28日

「大火前の建物、大火後の建物を見るまち歩き」

当日の参加者は20人位で、最初は破壊消火の為に解体された2番町・旧共栄電気（現ラーメンさすけ）を通り、火元の3番町・材木屋（現スーパーいちまん）へ、そこで中原三平様から火元は我々が思っていた新川脇の大工の作事場ではなく、現スーパーいちまんの前面道路側に大工の作事場があり、ここが出火元だという事実を教えて頂き大変良かったです。

帰りは大正4年・昭和28年の大火と平成の始め頃に、裏の材木店から出火しての類焼と三度の火災を乗り越え今も営業している割烹松のやを通り、四ッ角の2番町・室塚履物店の前で大火当時の消火作業中の写真を見ながら当時の状況を皆で想像しました。



内野まちづくりセンター隣の二番町平和公園内復興観音で

その後は2番町・伊藤新聞店や内藤さん川内さん宅を通り破壊消火された飯田傘屋さんを通り西地区公民館に戻りました。何よりも今回のまち歩きで、一番の収穫は中原三平様から教えて頂いた出火元の材木店敷地内の大工事場所位置が我々の認識していた場所とは違った事を教えて頂いたことだと思いました。中原三平様本当にありがとうございました。

・第5回目講座 11月26日

「2度の内野大火の教訓・現在の消火方法」

新潟市西消防署地域防災課の貝瀬係長さんから講演を頂きました。現在は十分に消火栓等の水利が確保され、消防自動車や小型ポンプ車等の消防力も強化されています。また近年、大規模・多様化する災害等への対応について、様々な事例を上げ、どのような災害でも人命第一で行動することが一番大切であると述べていました。



新潟市西消防署地域防災課の貝瀬係長さんから講演

今回、5回の講座で教えられた事は、火災原因の殆どが、人間の不注意が火災に繋がったと思われる人災だと思います。特に内野町を含む日本海沿岸部は、冬場には強い北西の季節風が常時吹き荒れ、また乾期には、この地域特有の《出しの風》と呼ばれている南風やフェーン現象で乾燥した強風も発生し、一度火災が発生すると大火災に繋がる確率が高くなる為、十分な注意が必要です。

私は24歳の結婚を機に、山際豆腐店の親父さんから自分の変わりにと消防団への勧誘を受け、昭和56年(1981)に内野消防団第1班に入団しました。



その後、平成25年(2013)息子の入団を機に56歳で退団する迄の32年間で一番記憶に残る火災は、入団2年目の昭和58年9月9日未明に発生した内野中学校木造2階建ての特別教室火災です。

まだ今の槇尾の西消防署は無く、特班の自動車ポンプと我が班のポンプを大門さんのワゴン車に積み込み、いち早く体育館裏に到着し、広通川の水を汲み上げて消火にあたりました。

1時間位で鎮火しましたが1階の技術・家庭科室と2階の美術・音楽室の内部を焼き尽くしました。

この火事で2階音楽室にあったブラスバンド部の楽器や遠藤実先生から寄贈して頂いたグランドピアノも焼け、変わり果てた楽器の残がいとピアノの足だけが1本焼け残りました。

焼け焦げたピアノの足は、現在も西蒲区越前浜の遠藤実記念館「実唱館」に淋しく展示されています。

10年位前から毎年、学校の夏休み前の土曜日の夕方に内野・五十嵐まちづくり協議会主催による《火の用心ウォーク》が、内野まちづくりセンター駐車場で開催され全町内から小学生や父兄と町内役員が集まり内野消防団や西消防署と新潟市消防音楽隊からも参加して頂き、ディズニーやマーチングの演奏を聴いた後に出発式が行われ、各町内に向かってパレードが実施されます。



毎年内野まちづくりセンターで行われる「火の用心ウォーク」

また夏休みに入ると小学生を中心にして父兄や町内役員が各町内で昔ながらに拍子木をたたきながら大きな声で「火の用心・マッチ一本火事のもと・火の用心」と各町内を廻り防火意識の高揚と注意喚起を呼びかけております。

「皆さんも参加しませんか？楽しいですよ！」近年、地震や火災またゲリラ豪雨等、災害が多様化するなか、

【火の用心が基本です！

自分達の町は、自分達で護ろう！】

雑 感

会員 清水 茂子

今年元日早々に能登半島で地震が発生し、新潟市にも大きな被害がありました。

新潟市西区の被害が繰り返し報道されたため多くの知人から大丈夫かご心配をいただきました。幸いにも我が家は砂丘地の高台にあっていたので、大きく揺れはしましたが本棚に置いた写真立が落ちたくらいで被害はありませんでした。

砂丘を南に下った県道 16 号線沿いに被害が多く、坂井輪地区に集中していました。元々この地区はすり鉢の底のような地形で、西蒲区などから次男、三男の土地の相続を受けられない人びとが、仕方なく入って来ましたが、排水が悪いので入植者達自ら大堀を掘削して広い農地が生まれたと言われています。



内野町手前の新川沿いの大野郷屋の道路と建物の被害

それからいくばくの年月を経ずに高度成長期の開発の波が押し寄せ、きれいに整地され、宅地化した住宅が建ちならびました。

西郵便局の駐車場が液状化して車が水につかっている映像がたびたびテレビや新聞で報道されていましたが、この土地は建設当時基礎の掘削をすると湧き水があふれて排水に苦労していましたが、地震で地下水位が浅いこれらの土地で液状化が起きたのは、このような土地の履歴によるものでしょう。

このことがきちんと受け継がれていれば、住宅を建てる時にそれなりの対策が出来たのではないのでしょうか。

また、軟弱な地盤のため地盤の隆起もあちこちで見られ、傾いている電柱や家が持ち上げられて基礎が出ている家屋も相当数あります。被災された方々は、まだ何も手が付けられない方がほとんどです。能登地方の被害が大きいため新潟はあまり注目されていないようで、同じように苦しんでおられます。これらの復旧には多くのお金と時間がかかるでしょう。何とも気の重い状況で新年が早 2 か月も過ぎました。

世界に目を向けると、一昨年にはロシアのウクライナ侵攻が始まり、3 年目に入りました。ロシア、ウクライナ双方で多くの兵士が亡くなっています。

中東ではハマスのイスラエル攻撃により戦争が始まり、パレスチナの民間人が毎日殺害されその数は 2 万人を超えています。子供の死者も 1 万人を超え、1 千人以上の人が足を失っています。病院も攻撃されています。

ロシアもウクライナもイスラエルも互いに自分たちの正当性を強く主張して一向に停戦の機運が見えません。世界ではアフガニスタン、シリア、イエメン、リビア、クルドなどでも内戦や紛争が続いています。

なぜ、人は戦争をするのでしょうか、どうして戦争は無くならないのでしょうか。

コロナ禍で外出もせず家にいて毎日のニュースを見ているとだんだん気持ちが沈んできてしまいました。年を重ねて何もできないことも悲しいです。

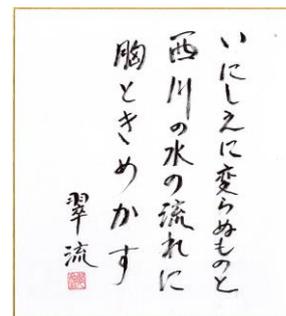
上堰潟公園は菜の花が咲き始めるのでしょうか、今年は冬らしい冬もなく暖かかったので花の便りが早いようです。

気を取り直して外へ出かけましょうか。春はすぐそこまで来ていますよね。

戦地にも春が早く来ることを願って。



菜の花と桜満開の上堰潟公園



笹川 悦夫氏 作品

第15回ダブルホームシンポジウムに参加して

会長 山中 清蔵

はじめに

2023年12月16日新潟大学のダブルホームシンポジウムに参加しました。Wホームとは何かも知らないでの参加でした。

新潟大学牛木学長の挨拶文より

2007年から始めた「ダブルホーム」は、学生たちが本来所属する学部・学科(第一のホーム)の枠を超えて集まる場所(第二のホーム)を作り、多様な活動を行い教員や職員も加わったチームにより、さまざまな地域の課題に取り組み、ユニークな学びの場所であります。

2023年は、学生367人(10学部の総合大学)、教職員66名、合計433名で組織されています。

引き続き、関係各位の皆様とのダブルホーム活動への変わらぬご理解とご協力、ご支援をお願い申し上げます。また、第15回ダブルホームシンポジウムの成功を心より祈念し、私の挨拶と致します。(抜粋)

1) 第1部 座談会 ～Think Our Home～

地域活動の課題について話し合い、活動の意義を考えます。会場に500名前後の会議でした。



総合教育研究棟での開会式前(挨拶坂本副学長)

2) 第2部 ホーム展 ～Feel Our Home～

A～Vホーム(18ホーム)が活動、地域の魅力を発信し、交流を促進します。(発表内容の審査)

内野・五十嵐まちづくり協議会 まちづくり部になったとき、Hホーム(ホーム名ほたる)と初めて知りました。

その後Aホームは、大学南が丘地域と交流、Lホームは西区坂井輪地域 Eホームは西区赤塚地区の地元との交流をしています。このホーム展での審査において、1位になったのは、Fホーム(ホーム名Natural)山形県小国町で活動しているグループでした。

閉会式の挨拶は、浅賀副学長と学生シンポジウム実行委員代表でした。

3) 懇親会

学生、教職員、地域住民との3つ組織が集まった懇親会です。隣にAホームと大学南が丘自治会幹部4人と学生4人のグループと一緒にになりました。

Aホームは夏祭り、内野祭り、梅プロジェクトそして、大学南が丘自治会と新大体育館での避難訓練を毎年行い、Wホームの模範となる交流を行っていると思います。因みに、Hホームは職員1、学生2、地域1の4名の参加でした。

おわりに

今回、初めて第15回ダブルホームシンポジウムに参加しての感想と今後の指針となるべく考えをまとめました。2007年から発足した「ダブルホーム」と2007年2.17に越後新川まちおこしの会と、奇しくも同じ年に発足しました。

2023年10月に新潟大学 ダブルホーム支援室より学生との交流について、注意事項の申し入れがありました。学生からも地域の皆さまとのコミュニケーションを図る努力をいたしますが、地域の方々からも交流の機会を作ってくださいますようお願いいたします。言動によっては、ハラスメントにあたりますのでご注意くださいようお願いいたします。それと喫煙、飲酒、宗教、政治、販売等の注意と、個人情報、写真等への配慮をお願いしています。



Hホーム(ほたる)の展示会場にて

新潟大学では、構内に3つ災害対応備蓄倉庫マンホールトイレ、新潟市の備蓄品が管理されています。ライフラインが、全て失った避難生活には、大学側が、住民の為に用意しています。その為にも日頃の交流も大事にしていきたいと思っています。

Hホームとは、昨年の新川音楽祭に6名が応援していただきました。今後の新川ほたる再開にも、学生の熱意に答えたいと思っています。

プラナリアのいる川

会員 安富 佐織

その土地ならではの「風と土の匂い」「人の気配」を感じさせる仕掛けもあった。そういうすべてが「がっとなね」気質、風土気質となっていくのかも知れない。褒め過ぎかもしれないが、飽きることのない素敵な小旅であった。

もう随分前になるが、北鎌倉へ一人で旅した時の話...。藤沢周さんが鎌倉在住であることは知っていた。明月院や東慶寺を回った帰りに「侘助」というカフェで周さんを待ちぶせしたことがある。

常連客と名乗る人たちに「連絡してあげようか」と言われたが、内野の近辺に住んでいるだけの女ですからと断った。親切なお節介が妙に嬉しかった。そこにいた鎌倉人はやはり文学の匂いのする人たちだった。

周さんなら談笑に花だろうし、この界限に住みたくなる理由も勝手に想像した。もう一つの条件として、鎌倉には漁港はないが、漁協と朝市がある。故郷内野を彷彿させる情景ではないだろうか。

昼食は食堂で「名物シラスかき揚げ丼」を食べた。真っ白くふっくらしたシラスは絶品風味だった。

とうとうその夜、周さんの姿はなかった。それでよかった。帰湯後、長居をさせてもらったお礼に「鶴の友」を贈った。藤沢周さんの故郷の地酒です 皆さんでどうぞと書き添えた。周さんが呑んだかどうかは定かでない..。ただ、ただ、内野に似た風の匂いを嗅いだような気がしたが、ここで「がっとなね鎌倉」とは言えない。似合わないから。

ということで、多々思うことばかり書きましたが、何よりも「がっとなね内野」の宝庫たる所以を感じてもらいたかった。「越後新川まちおこしの会」の役割の一つでもあると思う。



案内役の中山さん

何年も前ですが、日本中あちこちに出かけて、プラナリアを採集していたことがあります。遺伝子を調べる研究のための採集に同行していたのです。北海道にも行きました。九州、屋久島にも五島列島にも行きました。

プラナリアとは生き物の名前です。水の中に住んでいて、体は薄くて平たくて、色は黒っぽい茶色ですが、向こうが透けるようなちょっと半透明の感じで、ナメクジを小さく薄くしたような感じです。という気持ち悪いかもしれませんが、顔をアップにして見てみると、寄り目でなかなか可愛い顔をしていますよ。でも、肉食です。



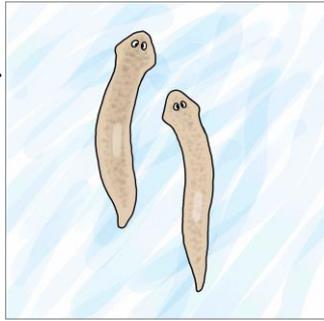
プラナリアを入れたペットボトル

写真は、2013年に京都の紅葉が美しいお寺の境内の小さな川にいたプラナリアを落ち葉ですくって、500mlペットボトルに入れたところです。

元気に這い回っていました。よく見えないかもしれませんが、水の中の、細長いのがプラナリアです。10匹くらいいると思います。大体の大きさがわかると思っています。それを実体顕微鏡で大きく拡大してみると、顔つきはイラストのような感じです。

プラナリアはだいたいきれいな水の中にいるので、採集旅行の時は、湧き水のあるところを前もって調べてからレンタカーで一日に何ヶ所も湧水めぐりをする、ということが多かったのですが、ついでに近くの川や神社の池や、住宅地の側溝の中を覗いて石があったら拾って裏を見ると、そこにいることもありました。わりとどこにでもいる感じです。ただ、汚い水や、深いところにはいませんでした。大きい川ではなくて、きれいな水で、浅くて、チョロチョロ流れていて、特に、段差があって水が空気と混じるような場所のすぐ下流の石や葉っぱの裏にはよくいました。

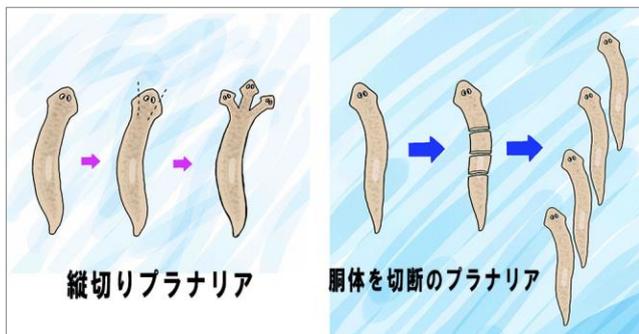
それから、川とは言えないほどの小さな流れで、例えば細い山道の脇にちょろちょろ水が地面を濡らして流れているようなところにもいました。たぶん酸素が好きなんだなと勝手に解釈しています。



慣れてくると、ここにはプラちゃんがいそうだと思って、狙った石をひっくり返すと、果たして石の裏には黒っぽい模様のような丸いものがついていて、それはプラナリアが縮こまっているのですが、しばらく見ているとそれがスイーと伸びて動き出して、あ、やっぱりいた、と思うのです。

昔々、生物学を勉強する大学生だったころ、学生同士でピクニックのようにリュック背負って休日に JR（当時は国鉄でした）に乗って、先輩に聞いた遠くの駅にある川に行き、みんなで川の中の石をひっくり返して探してプラナリアを取って帰ったことを思い出します。当時は、遠くまで時間をかけて採集に行き、やっと巡り会える珍しい生き物だと思っていました。そんなところまで行かなくても、今思えば、たぶん大学の中か、近くの神社あたりにもいたんじゃないかと思えますけど。

日本にはプラナリアが何種類もいるそうですが、一番普通に見かける（学術的な名前で言うと）ナミウズムシという種に注目して採集していました。北海道では、別の種類の白いプラナリアも見ました。頭の形が少し違うプラナリアも時に見かけました。いろいろなプラナリアがいるんですね。



切断すると分かれるプラナリア

中学生や高校生に聞くと、切っても切っても再生する生き物として知っている人もいます。一匹のプラナリアをシャーレに乗せて、ナイフで油揚げを切るように5つとか10とかの短冊に切っても、死なずに生き

ていて、それぞれの切れ端がしばらくすると一匹ずつのプラナリアになって、いつの間にか五匹や十匹のプラナリアになっているというのです。そのうえ、プラナリアの頭に縦に切れ目を入れると、それぞれが頭になって、ヤマタノオロチのような頭がたくさんあるプラナリアになるっていうから驚きです。

私はやったことはありませんが、かのダーウィンも興味を持って観察していたことがあるとネット上のどこかに書いてあった気がします。トカゲは尻尾が切れてもまたしばらくすると生えてくると言いますし、ミミズも切れてもまた再生すると聞いたことがあります。それでも、プラナリアのように縦に切っても横に切ってもまた生えて増えると言うのは他にあまりないんじゃないでしょうか。どうなっているのか、不思議な生き物だと思います。

編集後記

事務局長 小泉 勇

今回は、今まで執筆しなかった方へ寄稿を呼びかけた処、5名の方より原稿をいただきました。

渡辺斉様からは、元日に起こった能登半島地震などの災害に対し「血の通った復旧復興を」をいただき、加藤惇一様からは、健康のための散歩2コースを紹介していただきました。

竹内隆明副会長からは、近年の病気の体験から、しみじみと健康のありがたさを、宮川由美子様からは、内野の文芸の故郷に参加しての感想、そして古俣康様から短歌をいただきました。ありがとうございました。

新川通信-17号 年1回発行
(現在会員数 88名)

●発行：越後新川まちおこしの会
●事務局：新潟市西区内野山手2-18-8-6
小泉 勇
電話・FAX 025-261-0235
E-mail : iikoi@r6.dion.ne.jp

入会案内

本会は、新潟市内を流れる西川と新川の立体交差などの近世・近代文化遺産とも言える、新川の歴史およびその流域で育まれた産業や文化について理解を深め、その環境保全につとめながらさまざまな活動を通じて、流域および周辺地域のまちおこしに寄与することを目的に平成19年2月に発足しました。年会費1,000円です。ご入会をお待ちしています。